

ミサゴ便覧

平成 17 年 1 月 10 日発行

弓削野鳥の会編集発行

新年明けましておめでとうございます。

今年（酉年）が、鳥たちにとってもいい年でありますように。

「鳥たちの選択」

平山和昭

昨年は思いがけない野鳥の繁殖を確認できた年でした。おおよその鳥については春から夏にかけて繁殖の時季です。振り返って昨年



のトピックスを拾ってみますと、弓削島では石山のハヤブサ、松原のオオバズク（これは毎年）、佐島では竹の浦池でカ

ワセミ（初）、そこの近くの草原でユチドリ（初）。宮の浦池ではカイツブリ（初）、峠を越えて西辺の池ではカルガモ（初）、浦の奥池でもカイツブリ（初）。通年見られる野鳥と、この地を目指して渡ってくるホトトギスやツバメは当たり前だとしても、三山ではエナガ、

ヤマガラ、コゲラ、メジロ、ホオジロ、ヒヨドリなどの幼鳥をしばしば見ましたので、キビタキも繁殖しているのではなかろうかと期待できるところです。カワセミ、コチドリ、カイツブリ、カルガモについては、割合人通りのある場所なのに営巣しているので、彼等にとっては、もうほかに場所が無くなってせっぱ詰まってきている、ということなのではないでしょうか？

清流の宝石ともいわれるカワセミが、アオ粉の浮くよどんだ池にもかかわらずそこを繁殖の場所として選択したのには、嬉しいよりむしろ痛々しさを覚えます。

沢山の卵を産むとか、ワンシーズンに何度も雛を育てる鳥はそれだけ厳しい生存競争にさらされているというのは解るとしても、では2個や3個の卵を産む鳥はそれで十分かといえそうでもないみたいですね。事実、浦の奥池で目撃した2羽のカイツブリの雛は数日後の7月末の台風10号通過のあと姿をみせなくなりました。

信じられなくて数回通いましたけど、親鳥が2羽見られるだけでした。宮ノ浦のカイツブリは台風は乗り切ったものの、その後巣が荒らされたのか空っぽのまま対岸にながれつき、そこでまた2羽の親鳥が巣の修復をしていましたから、一応孵化には失敗したのでしょうか？

西辺の池のカルガモも発見したとき雛は2羽でした。カルガモは多産だと聞きますがそれぞれ一人前に育つまでにはいくつもの関門を通過しなければならないのでしょう。そういう中での繁殖ですから、われわれとしてはできること、水質の監視とか観察に神経使うとかを通じ、すこしでもいい環境を保持することに寄与できればいいがなあ、と思いますね。

ささやかでも弓削・佐島、あるいは他の地区に野鳥のサンクチュアリができれば、それこそが豊かさのひとつの表現ではないかと思うからです。 【写真：佐島竹ノ浦のタシギ（撮影：竹林清志）】

伊予銀行今治支店 「身近な鳥たち写真展」を振り返って

7月26日から8月6日まで、伊予銀行今治支店で「身近な鳥たち写真展」を開催いたしました。



今治支店も新装開店したばかりで、とても立派なギャラリーでした。8月3日に山田さんとしまなみ海道をわたりました。午後4時過ぎから作品の展示を

開始し、総展示数35点ほど約10mのスペースにずらりと写真を展示し、机3台に置物を展示しました。午後6時過ぎにようやく展示

も終わりました。今治支店の山田次長さんを始め職員の皆さん方に親切にしてください、とてもいい雰囲気の中に展示することができました。展示中も隣のキャッシュコーナーに来たお客さんがちょっと見せてくださいと、寄って行くお客さんもいてとても好感触でした。



また、機会があれば、是非展示したいと思いますので会員の皆さんも作品の製作に勤しんで下さい。

【ここに何点か観覧された方々のご感想を掲載します。】

- ・ 鳥たちの可愛い表情に暑さを忘れました。(今治市 佐々木)
- ・ こんなに近くの島に、たくさんの鳥たちがいるとは思いませんでした。ありがとうございました。(今治市 岩本)
- ・ 野鳥を愛する者として、弓削でのご活躍を力強く思っています。美しい鳥たちを愛する思いが感じられます。今後も益々のご活躍を祈っております。(今治市 青野)
- ・ 再度拝見し、しばし癒しの時を過ごすことができました。ありがとうございました。(今治市 熊野)
- ・ 弓削島に是非一度お訪ねしたいと思いました。(東予市 岡田)
- ・ 何かすごくほっとする写真ばかりでした。(大西町 木本)
- ・ アオバズクなどよく撮れていますね。(今治市 神村)

- ・ 身近にこんなにたくさんの鳥たちがいるなんて驚きました。姿を見ただけでは名前もわかりませんが、意識して見つけたいと思います。(高松市 中西)

※ たくさんの方々にご観覧いただき本当にありがとうございました。これからも地道に活動を続けていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

☆12月11日～12月24日まで 於：せとうち交流館

急遽、せとうち交流館で展示することになり、会員の皆さんには連絡不行き届きの点もあり、申し訳ありませんでした。何とか弓削



野鳥の会の宣伝にもなり、珍しい野鳥の写真に感動された方もいたようです。引続き弓削小学校の2階マルチパーパスに展示し、小学生に1

月いっぱい見ていただくことにしました。小学校に行くことがありましたら、是非ご覧になってください。これからも、展示できる場所があれば、随時展示していきたいと思ひます。伊予銀行今治支店、せとうち交流館については、毎年「愛鳥週間」前後には展示する予定です。 【写真：カシラダカ（撮影：竹林清志）】

渡り鳥はどうやって渡りをするのか

渡り鳥はどのようにしてあんなに長い距離を、正確に旅していくのでしょうか？ 渡りの時期がやってきたことをどうやって知るのでしょうか？ 渡りのルートはどうやって知るのでしょうか？ 渡りに必要なエネルギーはどうやって得ているのでしょうか？

・ 渡りの時期

渡り鳥は、飛び始める時期をどうやって知るのでしょうか？ いつ渡りを始めるのか、いつ終わらせるのかということは、鳥の体内時計に組み込まれたスケジュールによるのであり、細かいところは日照

時間の変動によって調整されています。そもそも鳥が渡りをするとは、繁殖のスケジュールと密接に関係しています。渡りをするのは、繁殖期と非繁殖期を別々の場



所で過ごすからなのです。そこで渡りの衝動も、直接には性ホルモンの働きによって制御されています。体の中に組み込まれた体内時計により、1年のある時期になると、雄でも雌でも生殖腺が発達していきます。そして、そこから分泌される性ホルモンが、渡りの衝動にスイッチを入れることが、至近要因であると考えられています。

・ 渡りルート

それではどうやって渡りの方向やルートを決めているのか？多くの鳥たちは、夜空の正座を目印に方角を決めています。日没直後に渡りの飛行を開始します。そのとき、日没時の太陽の偏光面は、方向を定める上で重要な手がかりになっています。鳥たちはまた、地磁気を感知して、それを目安に使ってまいるようです。このようにいくつかのコンパスを、鳥たちは生まれつき備えています。それらを駆使して方向を見定めながら、遺伝的に決められたスケジュールにのっとり、一定期間飛行を続けると、目的地に着けるといえるでしょう。渡りの仕組みであるといえるでしょう。

・ 渡りに必要なエネルギー

飛ぶことはずいぶんなエネルギーが必要です。渡りは、時には悪天候の中を風に逆らって飛んだりしながら、長期にわたって旅するのですからよほどたくさんの力を蓄えていかねばならないでしょうか？鳥たちは、渡りの前にはたくさんのエネルギーを、脂肪の形で体に蓄えます。飛行中にすべての食料を調達しなくても大丈夫なように、いわば、お弁当を持っていくのです。渡りの前になると、鳥たちはひたすら食べて脂肪を蓄えます。普段とは比べものにならないペースでひたすら食べまくり、過食します。それでは、脂肪はど

ここに貯めておくのでしょうか？それは、飛ぶのに邪魔にならないところではなくてはいけません。大部分の鳥では、それは、心臓や腎臓の周りなど内臓を取り巻く組織に蓄えられています。

(生き物をめぐる4つの「なぜ」 長谷川真理子著より)

あの鳥なんだったっけ

岡村美恵子

8月上旬のある夕方、回覧板を隣家に回しての帰り道、電線の上でいい声で小鳥がさえずっているのに、ふと気づき足を止めて眺めていたのですが、なかなか鳥の名が頭に浮かばない。さえずりの見事さからミソサザイかなと思いながら聞きほれていました。家に帰ってから、弓削野鳥ガイドブックを開けてみるが、弓削ではミソサザイはいないようで、いったい、あの鳥は何という鳥だったのか。なかなか姿と名前が一致しない。いつになったら覚えられるのだろうか。

1月30日(日) 町外遠征について(ご案内)

年に1回の町外遠征についてですが、参加される方は、1月25日(火)までに事務局(村上:77-3607)までご連絡ください。なお、雨天の場合は中止させていただきます。行き先については尾道・三原方面を予定しています。参加費は会員1,000円、家族会員500円
(集合時間場所:公民館に午前6:50集合、上弓削7:10出発)

※寒くなりましたので、防寒には十分注意してください。